

## 第 6 回 全 日 本 社 会 人 バ ス ケ ッ ト ボ ール 選 手 権 大 会

### 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第6回全日本社会人バスケットボール選手権大会				
●日程	令和6年2月23日 (金) ~ 令和6年2月24日 (土)				
●会場	花巻市総合体育館				
●講師	富士将史氏、佐藤匠氏、野崎梨奈氏、内野翔太氏、武藤陽子氏、小澤勤氏				
●スケジュール	令和6年2月23日 (金)				
	7:40 会場到着・更衣・ウォーミングアップ 8:20 PGC 8:45 コートin・コートインスペクション 9:00 ゲーム開始				
●担当試合	対戦カード	IZURASHI(東海1位)		VS Simon Tokyo(関東5位)	
	CC	佐藤氏(本部)	U1	北村	U2 田島氏(大分)
	講師/主任	内野翔太氏(本部)			
	講評	<p>クルーで協力して、ゲームがコントロールされていた。個人の課題としては、ポジションアジャストを工夫することで、より多くの情報を掴み、それにより笛を鳴らすタイミングや、鳴らすかどうかの決断を変えていくことであった。とくにセンターでは、セットアップポジションから上下(ハイセンター・ローセンター)の動きだけでなく、前後(コートの内側・外側)の動きも取り入れることで、オープンアングルがとりやすくなる。</p> <p>また、ハンドホイッスルでゲームに取り組んでいるが、笛を鳴らした後TOレポートに行く際に、手に握っている笛を片方の手からもう片方の手に持ち変える動作の見栄えが悪いので、改善できた方がいい。</p>			
自己の感想	<p>クルーチーフのお心遣いにより、エッジを越えるクルーワークが実現できた。クロックの修正の場面では、CCMを発揮して持っている情報をコート上で出すことができた。講師からの助言にあった、ポジションアジャストやハンドホイッスルについては、習慣化していたことなので、新たな気づきがあった。大会初日の第1ゲームを、大きなトラブルなく終えることができてよかった。</p>				
●スケジュール	令和6年2月24日 (土)				
	9:30 会場到着・更衣・ウォーミングアップ 10:00 PGC 11:00 コートin・コートインスペクション 11:15 ゲーム開始				
●担当試合	対戦カード	ILL(北海道1位)		VS 盛岡クラブ(開催権)	
	CC	北村	U1	渡慶次(沖縄)	U2 坂(福島)
	講師/主任	増淵泰久氏(JSB)			
	講評	<p>前半は接戦であったが、1Qで両チームに判定基準を示し、概ねテンポセットできていた。</p> <p>OOBのヘルプや訂正、クロックの修正等、クルーで協力できていた。</p> <p>個人の課題として、落ち着いた雰囲気の中でコートに立っているように見えるが、たとえクルーのプライマリエリアであったとしても、判定基準に関してこだわりをもって決断し、判定を示すことや、1試合の中で抑揚をつけて自分の判定を表現する場面があった。</p> <p>また、クロックの修正の際にも、一人で決めてしまうのではなく、クルーを集めて意見を聞いてから決断することも、選択肢の一つとして持っているよかった。</p> <p>そうすることで、クルーのみならず、ミスをしたTOも守ることができる。</p> <p>ポストゲームカンファレンスでは、すぐに映像を見て振り返ろうとせずに、その時のイメージでまず話をした後に映像を見ることも、判定力を高めるために大切である。</p>			
自己の感想	<p>クルーと事前に連絡を取り合い、宿舎から会場への移動も行動をともにし、クルーワークを高めて試合に臨むことができた。</p> <p>クルーチーフとしてクルーを引っ張ることはできたと思うが、講師からの助言にあったように、自身の引き出しの少なさも感じた。結果に至るプロセスとして様々な選択肢をもち、その中で最良のプロセスを選んでいくことが今後の課題であると感じた。</p> <p>また、選手のインテンシティが上がる要因をクルーとして分析し、ゲーム中に改善していくことも課題の一つであった。</p> <p>最後に、本大会に参加させて下さいました、大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様、本当にありがとうございました。</p>				